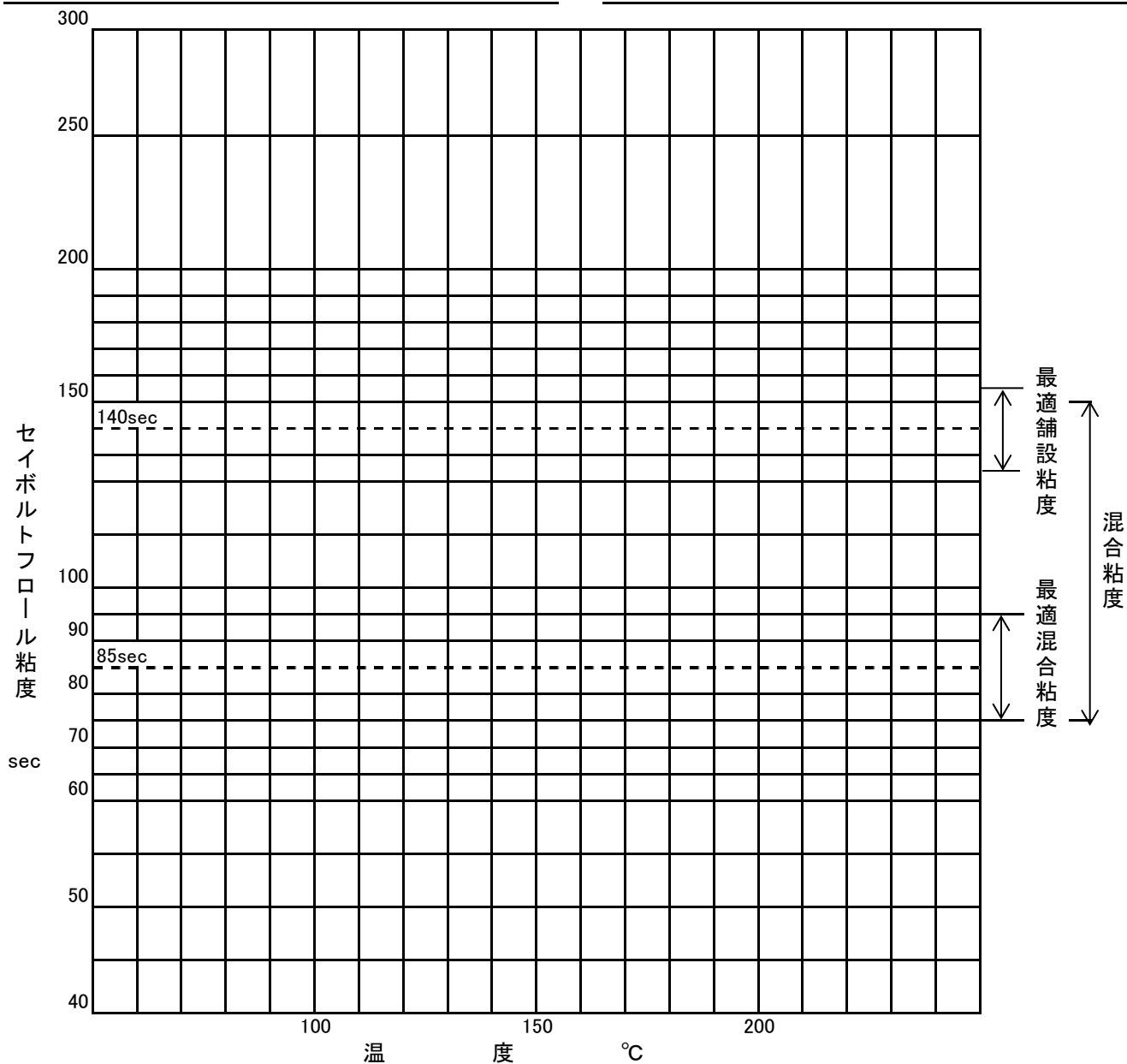


アスファルトの粘度温度表

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____



	記号	種類	加熱温度	混合温度	舗設温度
最適温度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
現場管度			± °C	± °C	± °C
			± °C	± °C	± °C
混合舗設間温度低下推定					± °C

粗骨材試験成績一覧表（碎石）

工事名		受注会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	種	類		
粒度 (通過量 %)	53	mm			
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2				
	9.5				
	4.75				
	2.36				
密	度				
単位体積質量(標準) kg/m ³					
" (軽装) kg/m ³					
安定性 %					
吸水率 %					
すりへり減量 %					
洗い試験で失われる量 %					
軟石量 %					
細長、扁平(質量) %					
" (箇數) %					
総試料質量 kg					
アルカリシリカ反応	試験結果				
試験(JIS A 5308)	試験方法				
試験年月日					
試験機関名					

細骨材試験成績一覧表（砂）

工事名		受注会社名			
工種名		測定者			印
種	類				
用	途				
産地	河川名				
"	市郡町村				
生産	会社				
粒度 (通過量%)	4.75 mm				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
	F・M				
密	度				
単位体積質量(標準) kg/m ³					
" (軽装) kg/m ³					
安定性 %					
吸水率 %					
洗い試験で失われる量 %					
粒形判定実績率					
総試料質量 kg					
アルカリシリカ反応	試験結果				
試験(JIS A 5308)	試験方法				
試験年月日					
試験機関名					
備考					

石粉及びスクリーニングス試験成績一覧表

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印

種	類				
用	途				
産	地				
生	産	会	社		
原	石	の	種	類	
粒 度 (通 過 量 %))	9.5	mm			
	4.75				
	2.36				
	0.6				
	0.3				
	0.15				
	0.075				
密	度				
単	位	体	積	質	量 (標準) kg/m ³
"		(軽	装)	kg/m ³
安	定	性	①	%	
吸	水	率	②	%	
す	り	へ	り	減	量 ③ %
0.075	通	過	分	の	P. I. ④
加	熱	変	質	200 °C	⑤
フ	ロ	ー	試	験	⑥ %
浸	水	膨	張	⑦	%
は	く	離	試	験	⑧ %
総	試	料	質	量	kg
試	験	年	月	日	

注 ①～③はスクリーニングスのみとする。

④～⑧は原石が石灰岩以外の石粉及び合成した場合の0.075通過分の1割以上がスクリーニングス0.075通過分で占める場合のスクリーニングスの0.15通過分について行う。

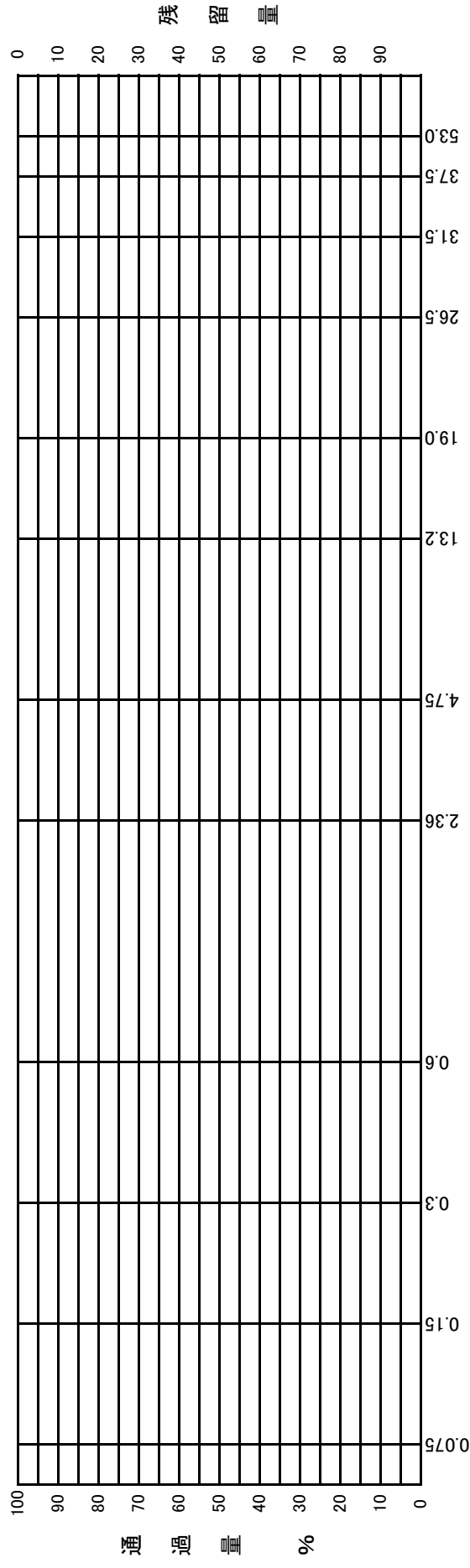
⑤は200℃ ⑥はセメントモルタル用フローテーブルで15回落下200mmの時の石粉に対する水の重量比

様式 43

骨材粒度曲線表(アスファルト)

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____ 受注会社名 _____ 測定者 _____ 印 _____
 工種名 _____



粒 径 mm

①		④	⑦
②		⑤	⑧
③		⑥	例
種類、産、用途			

様式 44

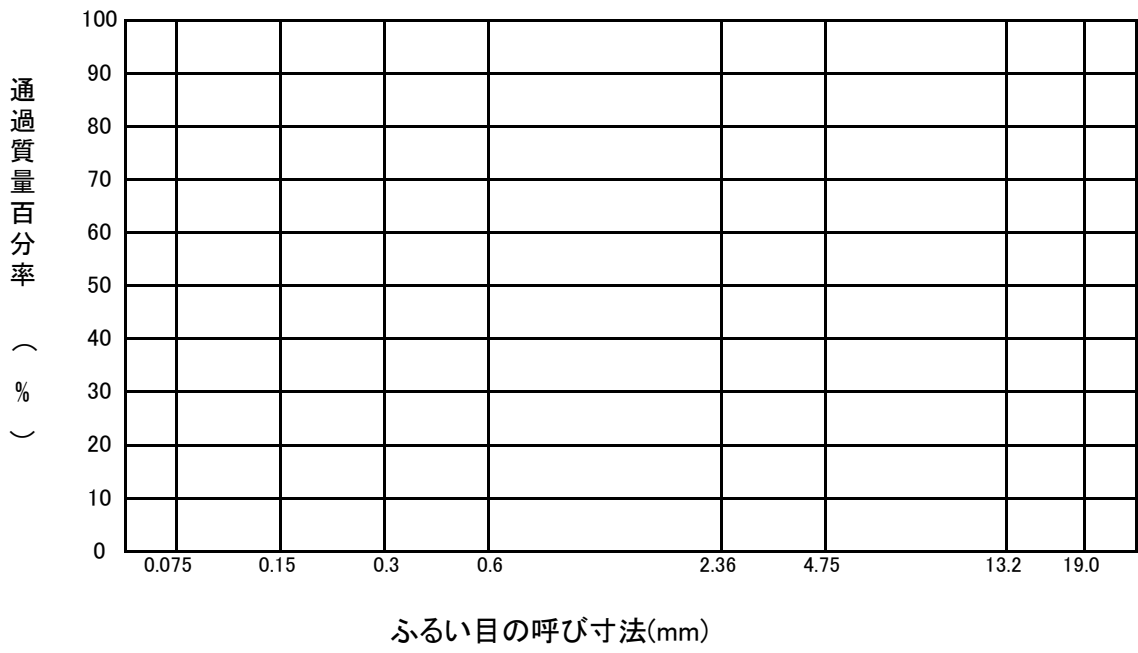
合材粒度ふるい分け試験及び配合比決定例

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印

1. 使用予定骨材のふるい分け試験結果								
ふるいの呼び寸法 (mm)	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.

2. 使用予定骨材の配合百分率の決定



様式 45

骨材の推定変動範囲(細骨材及びスクリーニングス)

試験日 平成 年 月 日

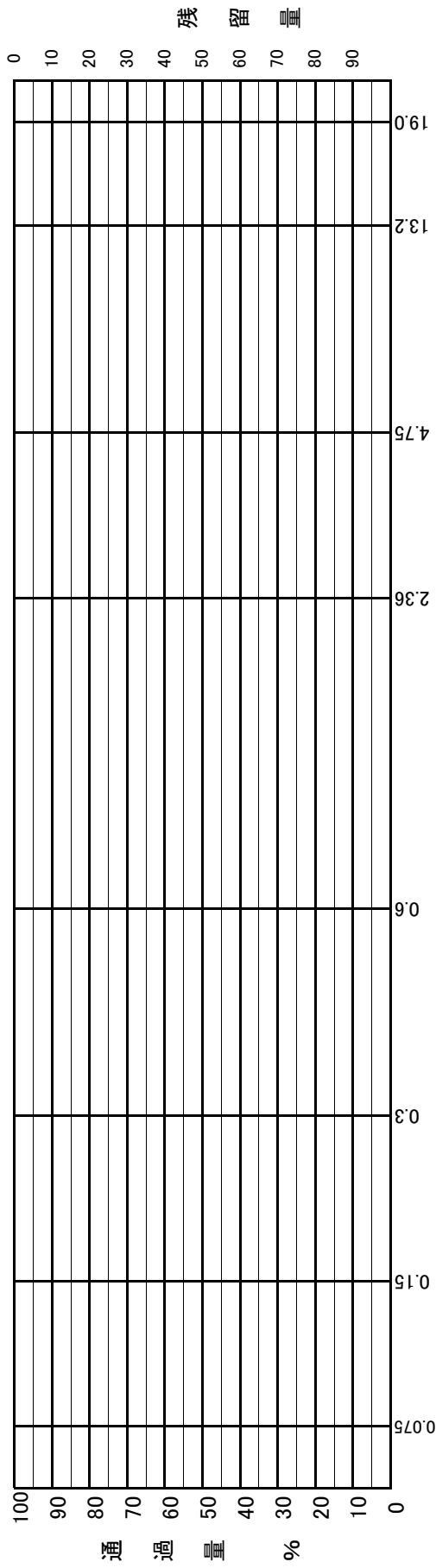
受注会社名

測定者

工事名

工種名

印



凡例	①							配合設計に 用いた値 範囲
	②							
		③						
			④					

骨材配合率の密度補正

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印

							(記号) ()	(合材種別) ()
骨材種類							計	
配合率 a							100	
密度 b							-	
a × b							(c)	
補正配合率 $\frac{a \times b}{c} \times 100$							100	

様式 47

骨材配合率及びび合成粒度（室内試験）

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____ 受注会社名 _____ 測定者 _____ 印

工種名 _____

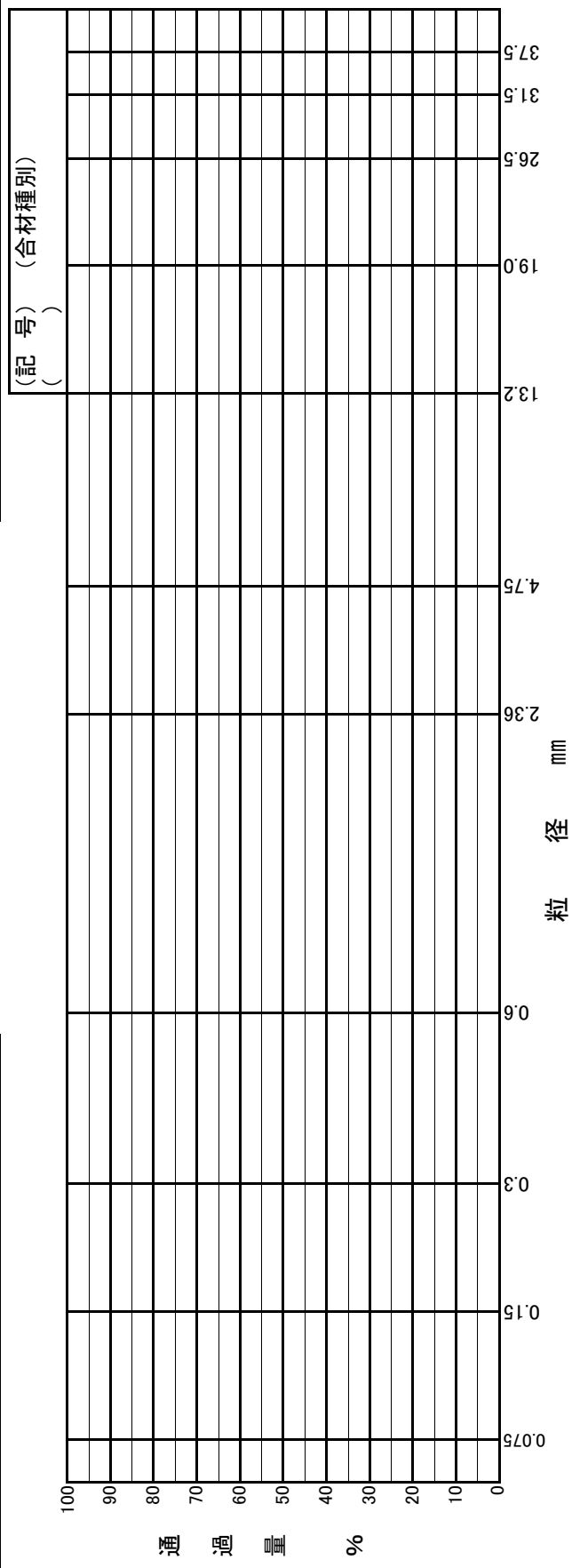
骨材種類 配合率 (比重補正)	原粒度		X配合率		原粒度		X配合率		原粒度		X配合率		原粒度		X配合率		合成度 Σ (X配合率)	指定粒度範囲
	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率	原粒度	X配合率				
通過量 53 mm																		
37.5																		
31.5																		
26.5																		
19																		
13.2																		
4.75																		
2.36																		
0.6																		
0.3																		
0.15																		
0.075																		

様式 48

合成粒度曲線(室内試験)

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____ 受注会社名 _____ 印
工種名 _____ 測定者 _____



_____	合成粒度
-----	指定範囲

様式 49

試験配合表（アスファルト量別）

試験日 平成 年 月 日

工事名 _____

受注会社名 _____

工種名 _____

測定者 _____

印 _____

配合区分	アスファルト量%	粗骨材%			細骨材%		石粉 %	合計 %	摘要
A									
B									
C									
D									
E									
F									

記号 ()
合材種別

(アスファルト針入度)

・配合区分はアスファルト量0.5%又は0.3%毎に区分すること

アスファルト混合物の安定度試験
(マーシャル式・理論最大密度)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試 験 日	平成 年 月 日 曜 天候				
試 験 日 の 状 態	室 温 (°C)	湿 度 (%)	水 温 (°C)		
混 合 物 の 種 類					
理 論 最 大 密 度 の 計 算					
骨 材 の 種 類	産 地 名	① 配 合 比 (%)	②各骨材の比重	③係 数	$\frac{①}{②}$
係 数 の 和 = ④ =					
乾 燥 骨 材 の 比 重 = $\frac{100}{④} =$					
⑤ アスファルト 混 合 率 (%)	⑥ アスファルトの 比 重	⑦ $\frac{⑤}{⑥}$	⑧ $\frac{④(100-⑤)}{100}$	⑨ ⑦+⑧	⑩ 理 論 最 大 密 度 $\frac{100}{⑨}$
考 察					

様式 50-2

アスファルト混合物の安定度試験(マーシャル式)

試験日 平成 年 月 日

受注会社名

工事名 _____

測定者

工 種 名 _____

印

マ ー シ ャ ル 安 定 度 試 験 結 果																
突 固 め 回 数	アスファルトの加熱温度 (°C)		骨 材 の 加 熱 温 度 (°C)	混 合 温 度 (°C)	締 固 め 温 度 (°C)	フ ロー 値 (1/100cm)										
	試 験 の 温 度 条 件															
①	厚 さ (cm)	③	質量 (g)		空 中	④	④'	④	⑤	容 積 (cm ³)	密度 (g/cm ³)	アスファルト 容 積 率 (%)	空 げ き 率 (%)	飽 和 度 (%)	安 定 度 (kN)	フ ロー 値 (1/100cm)
			実 測	理 論												
			中	乾	中	水	中	④ - ⑤ ま た は ④ - ⑤	④	⑥	④	⑤	④	⑤	④	⑤
			1	2	3	4	平均									

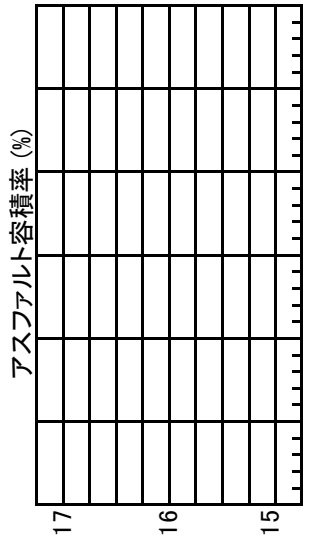
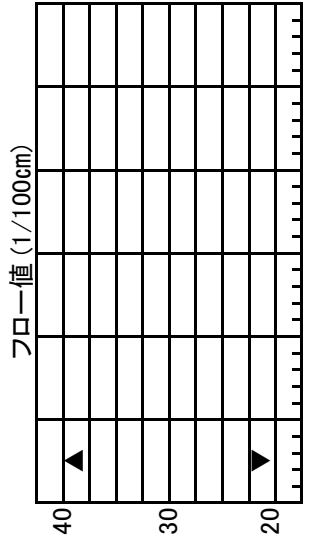
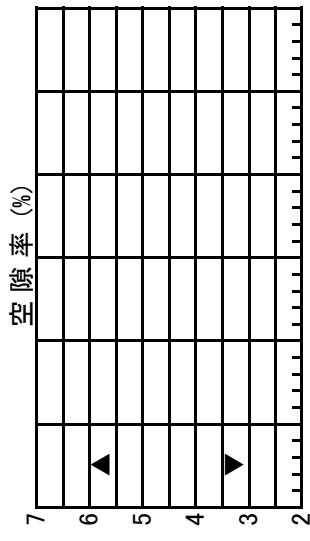
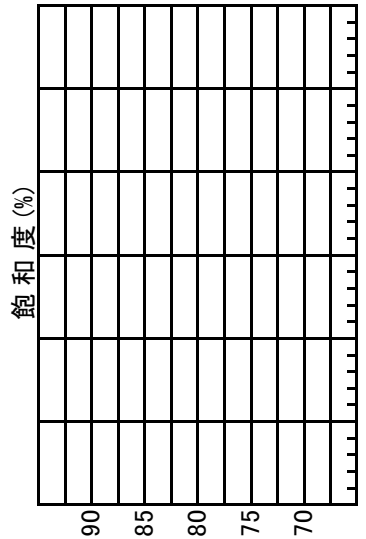
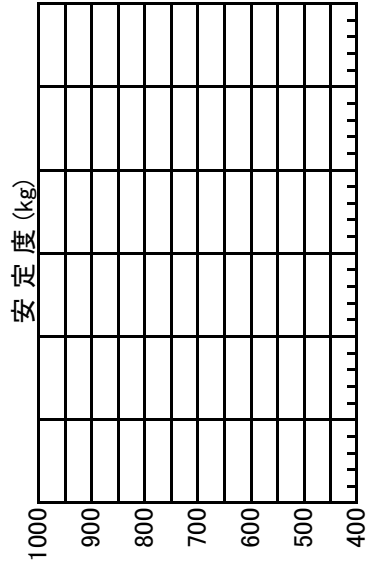
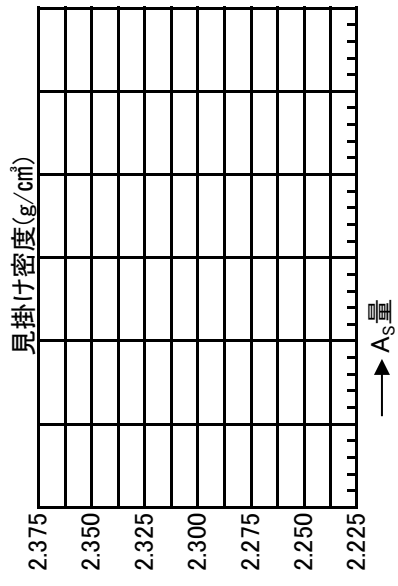
様式 51

試験結果図表

工事名 _____
 工種名 _____

受注会社名 _____ 印
 測定者 _____

(記号) (合材種別)
 () ()



注) : 上記の基準値の線は密粒度の1例を示している。合材種類が異なる場合は、「アスファルト舗装要綱」により適宜置き換えること。


マーシャル試験による基準アスファルト量

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

(記号) (合材種別)
()

安定度									
フロ－値									
空隙率									
飽和度									
アスファルト量	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	%	
許容範囲									

注：1. それぞれの範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付記する。

許容範囲は4項をすべて満足する範囲を  で示し、端部にアスファルト量の数値を付す。

2. 上表の基準値は、密粒度の1例、種別が異なる場合は「アスファルト舗装要綱」による。

基準アスファルト量A

許容範囲の最大値 ①	%
〃 最小値 ②	%
A= [$\frac{①+②}{2}$]	%

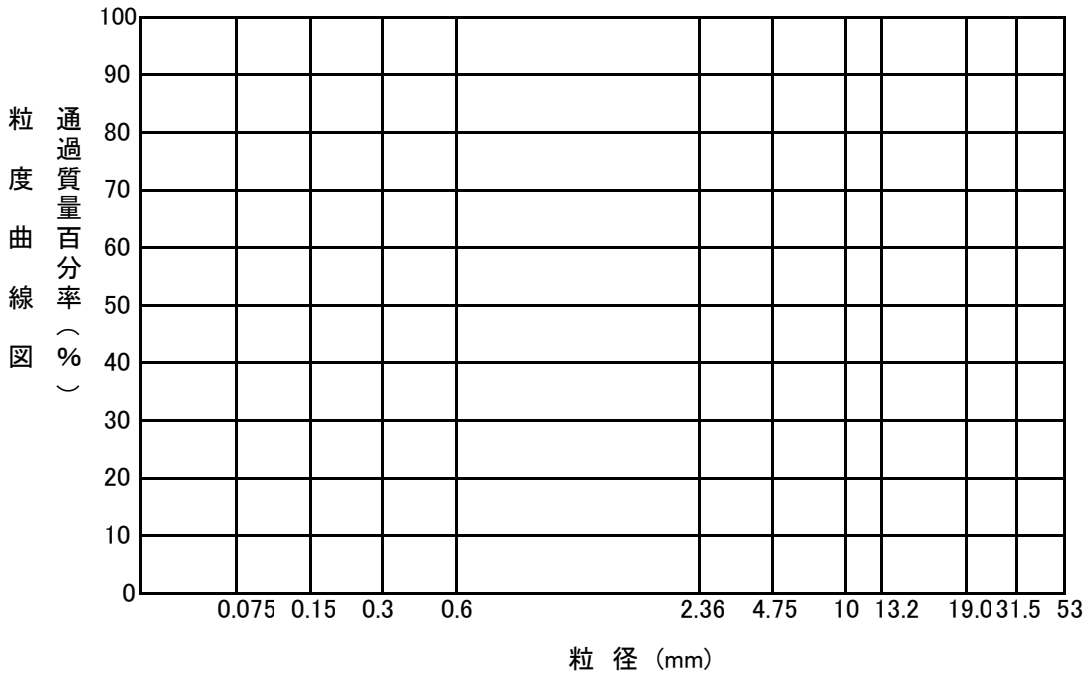
注：アスファルト混合物の一般的な配合設計では、所要の性状を満足し切れない特殊条件のある場合は、現地の実情、過去の実績を勘案して①～Aの範囲で適宜決めること。
 なお、「特殊条件」とはアスファルト舗装要綱による「特殊条件」のことである。

フィーダ、ホットビン、ミキサーの骨材の粒度試験

工事名 _____ 受注会社名 _____
 工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 午前 _____ 時 _____ 分
 試料採取時刻 午後 _____ 時 _____ 分
 骨材の産地又は製造会社名 _____

骨材の種類 通過ふるい											合成 粒度
	53										
37.5											
31.5											
19.0											
13.2											
9.5											
4.75											
2.36											
0.6											
0.3											
0.15											
0.075											
31.5											
19.0											
13.2											
9.5											
4.75											
2.36											
0.6											
0.3											
0.15											
0.075											



粗骨材のすりへり試験
(JIS A 1121)

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

試験日	平成 年 月 日 曜 天候						
試験日の状態	室温 (°C)	湿度 (%)	水温 (°C)	乾燥温度 (°C)			
試験料							
とどまるふるい (mm)	通るふるい (mm)	各群の質量 (g)	各群の質量百分率 (%)	粒度区分	球の数	回転数	① 試験前の試料の質量(g)
	2.5						
2.5	5						
5	10						
10	15						
15	20						
20	25						
25	40						
40	50						
50	60						
60	80						
合計			100.0				
②試験後1.7mmふるいにとどまった試料の質量 (g)							
③すりへり損失質量 ①-② (g)							
④すりへり減量 $\frac{\text{③}}{\text{①}} \times 100$ (%)							
考 察							

アスファルトの抽出試験

工事名 _____
 工種名 _____ 舗装箇所 _____
 試料番号 _____ 受注会社名 _____
 試験日 平成 年 月 日 _____ 測定者 _____ 印 _____

アスファルト抽出試験結果				(焼却法)				(加圧濾過法)			
採取時		試験		採取時		試験		採取時		試験	
抽出前の試料の質量 g	①			抽出液全容積 cc	⑦			加圧前の口紙の質量 g	⑦		
抽出前の口紙の質量 g	②			焼却前の蒸発皿の質量 g	⑧			加圧後の残留物質質量 g	⑧		
抽出骨材質量 g	③			焼却後の蒸発皿の質量 g	⑨			加圧後の口紙の質量 g	⑨		
抽出後の口紙の質量 g	④			石粉の質量 g	⑩			口紙付着石粉質量 g	⑩		
口紙付着石粉の質量 g	⑤	④-②		抽出液中の石粉の質量 g	⑪			抽出液中の石粉質量 g	⑪		
抽出全骨材質量 g	⑥	③+⑤		⑩=⑨-⑧ ⑪=⑩× $\frac{⑦}{100}$				⑩=⑨-⑦ ⑪=⑧+⑩			
				抽出残留物(骨材)の粒度分布							
全骨材質量 g	⑫	⑥+⑪									
アスファルト量 g	⑬	①-⑫									
アスファルト混合率 %	⑭	$\frac{⑬}{①}$									
備考											

抽出残留物のふるい分け結果

採取時 試験									
	ふるい目 (mm)	各ふるい残留質量 g	各ふるい残留百分率%	累加残留百分率%	累加通過百分率%	各ふるい残留質量 g	各ふるい残留百分率%	累加残留百分率%	累加通過百分率%
53									
31.5									
19.0									
13.2									
4.75									
2.36									
0.6									
0.3									
0.15									
0.075									
0.075以下									

路面の平坦性試験表（標準偏差）

工事名		測定車線	
		測定器の種類	
施工地名	市 町 郡 村	測定年月日	年 月 日
受注会社名		測定者	印

標準偏差の計算	$\bar{R} = \frac{R_1 + R_2 + R_3 + \dots + R_n}{n}$ $\sigma = \frac{\bar{R}}{d_2}$	d ₂ の値	
		グループの大きさ	d ₂
		6	2.53
		7	2.70
		8	2.85
		9	2.97
		10	3.08

グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)

- 注) 1. 測定値を作成したのち本表で標準偏差を求める。
 2. 測定方法は「アスファルト舗装要綱」による。

プルーフローリング試験

工事名 _____ 受注会社名 _____

工種名 _____ 測定者 _____ 印 _____

項目	事項				備考
天候		測定面の含水状況			
試験区間	No. _____ ~No. _____				
載荷車	型式		接地圧		
載荷状況	予備載荷回数	回	本載荷速度	km/h	

試験結果

視察展開図	
視察記事	
異常箇所の処置	

(品質管理関係)

様式 58-1

X - R 管理データシート

工 事 名	受注会社名
工 種 名 (名 称)	測 定 者 印
項 目 名 (品 質 特 性)	作 成 者 印

設 計 基 準 値 A	規 格 値 限 界		測 定 単 位	日 標 準 量
	上 限	下 限		資 料 大 小 間 隔
	+	-		作 業 機 械 名

月 日	測 点	組 番 の 号	測 定 値			計 ΣX	平 均 値 \bar{X}	範 圍 R			
			X_1	X_2	X_3						
		1									
		2									
		3									
		4						平均	\bar{X}	R	\bar{R}
		5						累計			
小計								小計			
		6									
		7									
		8									
		9						平均	\bar{X}	R	\bar{R}
		10						累計			
小計								小計			
		11									
		12									
		13									
		14									
		15									
		16									
		17									
		18									
		19						平均	\bar{X}	R	\bar{R}
		20						累計			
小計								小計			

(注)

1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記 事

記入要領

1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。
2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。
3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。
4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。

n	d_2	A_2	D_4
2	1.13	1.88	3.27
3	1.69	1.02	2.57
4	2.06	0.73	2.28
5	2.33	0.58	2.11

X̄ - R 管理データシート

工 事 名	受注会社名
工種名(名称)	測定者 印
項目名(品質特性)	作成者 印

設計 基準値 A	規格値 限界		測定 単位	日標準量
	上限	下限		資料 大きさ
	+	-		間 隔
			作業機械名	

月日	測点	組番 の号	測定値			計 ΣX	平均値 \bar{X}	範囲 R			
			X ₁	X ₂	X ₃				平均	\bar{X}	R
									平均	\bar{X}	R
									累計		
									小計		

特記

(注) 1. 管理限界線の引直しは、5-5-10-20方式による。
2. 21組から40組までは別のデータシートに記入する。以下、20組ごとに同様とする。

記入要領	1. 「項目名」はコンクリート(セメントの物理試験)、道路工(含水量試験)等の品質特性を記入する。	n	d ₂	A ₂	D ₄
	2. 「月日」の欄は測定年月を記入する。	2	1.13	1.88	3.27
	3. 「番号」の欄はSTA又はロット番号である。	3	1.69	1.02	2.57
	4. 「測点」の欄は当該測点番号を記入する。	4	2.06	0.73	2.28
		5	2.33	0.58	2.11

様式 58-3

Ⅹ - R 管理図

設計基準値	工事標準	事業所名	年月日
名称	日標量	期間 自 至	年 月 日
品質特性	規格限界 上限値 下限値		年 月 日
測定単位	試料 大きさ 間隔	受注会社名	
測定方法		現場代理人	
作業機械名		測定者	印

Ⅹ			
R			

組の番号	
記事	

注) 1.管理図は、別紙Ⅹ-R管理データシートから記入する。
 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

X-Rs-Rm 管理データシート

名 称		工 事 名		測定	自	年 月 日
品質・特性		事業所名		期間	至	年 月 日
測定単位		日標準量		受注会社名		
規格 限界	上限値	試料	大きさ	現場代理人		印
	下限値		間隔	測定者		印
設計基準値		作業機械名		作成者		印

月日	試験 番号	測定値				計 Σ	平均 X	移動範囲 Rs	測定値 内 囲 Rm	計算式								
		a	b	c	d					$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$	$D_4 \cdot \bar{R}_s =$	$D_4 \cdot \bar{R}_m =$						
	1																	
	2																	
	3																	
	4																	
	5																	
	小計																	
	6																	
	7																	
	8																	
	小計																	
	9																	
	10																	
	11																	
	12																	
	13																	
	小計																	
	14																	
	15																	
	16																	
	17																	
	18																	
	19																	
	20																	
	小計																	
記事									n	d ₂	D ₄	E ₂						
									2	1.13	3.27	2.66						
									3	1.69	2.57	1.77						
									4	2.06	2.28	1.46						
									5	2.33	2.11	1.29						

- 注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。
 2. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

3. 以下、最近20個(平均値 x を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式59-2

X - Rs - Rm 管理データシートの2

月日	試験番号	測定値計					平均値 X	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm				
		a	b	c	d	Σ							
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
										$D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
										平均	$\bar{X} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
										累計			
	小計									小計			
記事										n	d ₃₁	D ₄	E ₃
										2	1.13	3.27	2.66
										3	1.69	2.57	1.77
										4	2.06	2.28	1.46
										5	2.33	2.11	1.29

注) 1. 管理限界線の引直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

(備考) _____ 管理限界計算のための予備データの区間を示す。
 ----- 上記の管理限界を運用する区間を示す。

2. 以下、最近20個(平均値 x̄ を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

様式 60

X - Rs - Rm 管理図

設計基準値	名 称	工 日	事 業 所 名	事 業 所 名	年 月 日
品 質 特 性	規 格 値 限 界	上 限 値	受 注 会 社	受 注 会 社	年 月 日
測 定 単 位	下 限 値	大 小 間 隔	現 場 代 理 人	現 場 代 理 人	年 月 日
測 定 方 法	試 料				
作 業 機 械 名					
X					
Rs					
Rm					
組 の 番 号					
記 事					

注) 1. 管理図は、別紙X-Rs-Rm管理用データシートから記入する。
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

様式 6 1

平成 年度

工事 工事写真

一部完成検査，出来形検査，中間検査

月 日	回	検査種別	検 査 員 職・氏名・印	総括監督員 職・氏名・印	監 督 員 職・氏名・印	現場代理人 氏 名 ・ 印
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						

完 成 検 査

月 日	検 査 員 職・氏 名・印	総 括 監 督 員 職・氏 名・印	監 督 員 職・氏 名・印	現場代理人 氏 名・印
月 日				

支庁・課名 _____

受注者名 _____

- 注) 1. 工事写真は、本表紙様式により全工種を一括綴りとし、インディックス等により
検査毎に仕分けし、更に工種毎に細仕分けするものとする。
2. 工事写真は、検査のつど監督職員に提出するものとする。
3. 工種は、施工管理基準の「工種」の項目とする。

